

# アルパックニュースレター

地域計画・建築研究所



高月町・観音の里の新しいコミュニケーションセンターです。  
4月にオープンした「渡岸寺庵」を紹介します。

## アルパック ニュースレター もくじ

- アルパック中期経営計画…………… 2
- いま太陽が丘周辺では…………… 3
- 地域づくりのアイデアと計画…………… 5
- 香港・広州“植切り観光”“食べ物交流”…………… 7
- ソウルの日曜日と大学訪問…………… 8
- 高月町・観音の里によこそ…………… 9
- 新人紹介……………10
- 新刊旧刊書評紹介「パパラギ」……………11
- まちかど……………12

NO. **36**

## アルパック中期経営計画

### チャレンジ&マネジメント

三輪 泰司

お気づきのことと存じますが、前号から、題字をカタカナで「アルパックニュースレター」と変えております。実はこのことも、中期経営計画の一環ですが、社名変更への布石のつもりです。アルパックの英語名はNo.16(86年3月)で解説致しましたように、プロフェッションの説明になっています。これもK(=京都の意)が実情に合わなくなってきました。変える時期ですが、とりあえずカタカナ名で、お馴染み頂こうというわけです。

#### 続くために変わる 自己革新へ

アルパックは、創業の当初から、資本はインデペンデント、業務範囲はマルチプル、社員構造はナショナルワイドでした。20年を経ますと、様相が変わってきました。

業務は関西文化学術研究都市構想のように国家的な事業から、地域に密着したものまで、或いは先端的な研究開発から国際化政策まで、規模と領域がすっかり変わってきました。

社員の数は70名を超え、その構造におきましても、インターナショナルになってくるとともに、当然のことながら年齢階層が重層化してきました。

変化におくれをとらないよう、業務の品質管理から、経営管理までマネジメントが重要なテーマになってきました。

このことを予測して数年前からコンサルタント・建築家プロフェッションのアソシエイツに、計画部を単位とする小集団のアソシエイツの方法を組み合わせ、マネジメントにおいても創造的にチャレンジしてきました。

#### 社会進歩のために 政策目標と計画

アルパックは「住みよい都市・農村・豊かな国土を創り、進歩する社会に貢献する、若々しいエネルギーの核となる」ことを目的としています。

その目的のために、時代相をリードし、地域の課題を打開する果敢な力を常に高めねばなりません。

創業以来2,100件を超える業務と20回の全所研修会で、社員の能力水準向上から、教育プログラムまで、知的ストックを積んできました。

このパワーを基礎とし、経営組織の刷新・活動舞台の展開および管理運営の強化を図りシンクタンク・プロジェクト・プランニング・コンサルタント経営における知的労働と経済的ストックのありかたに正面から取り組む時期にきたと判断しました。

地方公共団体等の「総合計画」に倣い、概ね10年を目途とする「中期経営計画」の策定に入り、同時にそのプログラムに従って実践を開始しました。

政策目標と計画は4つです。

- \* 100～200名体制へ 科学的・創造的な経営運営システム
- \* グローバル型へ 国際的・先端的な情報システム
- \* 所得・投資強化 合理的・積極的な労務・財務システム
- \* 社員構造の重層化 厳しくヒューマンな評価・処遇・教育システム

グレーターの活動 ひとまわり大きく

まず本体をしっかりすることが基本です。

それとともに、社会的存在としての責務を果たさねばならないと自覚しています。

経営メンバーは、ひとまわり大きく、グレーターな視野と舞台、それに相応する職務職責を果たさねばなりません。

3月24日の株主総会で役員増員と“1年以内に執行”の議決を頂きました。

7月1日をもって新執行体制を実行します。

世間並みに、おひろめもしなければなりません。まず内輪のお知らせを申し上げます。

会長職を設け、専務・常務制を廃止し、副社長3名としました。選任された役員と担当職務の概要は次のとおりです。

金井萬造 代表取締役社長  
京都・大阪・計画部  
本社総務統括

道家駿太郎 副社長 事業開発・品質管理  
主席建築家

尾関利勝 副社長 地域事務所管理  
名古屋事務所長

霜田 稔 副社長 研究開発・国際活動

倉本恒一 主席建築家

山口繁男 京都事務所長 新任

杉原五郎 大阪事務所長 新任

重本幸彦 情報システム責任者 新任

斎藤侑男 東京事務所長 新任

北条 誠 第3計画部長 新任

三輪泰司は代表取締役会長として、糸乗貞喜は㈱九州地域計画研究所社長・非常勤取締役相談役として、また霜田 稔は㈱アルバック・インターナショナル社長として業務指導と“グレーター”へ向けての職務を担当します。  
(みわ ひろし 代表取締役会長)

いま太陽が丘周辺では

山田 泰造

はじめに

宇治の太陽が丘をご存知ですか。平等院の裏山つづき、宇治市役所から500mほど南東に展開する総合運動公園の愛称です。面積は100ha、スポーツ、レクリエーションの場として年間100万人以上の府民に親まれていきます。昭和53年、京都府知事に選ばれた林田さんが、早々に運動公園の構想を発表されたのが始まりです。57年3月には早々と開園しました。63年京都国体では夏期大会の主会場となり競泳、飛込が、また秋期大会ではサッカー、ソフトボールが行われ、全国から集った役員選手は異口同音に広々とした空間と、絶

好の環境に限りない讃辞を連発しました。

太陽が丘のあらまし

太陽が丘は標高100m前後の洪積層の丘陵にあり、明治の初めから国有林(170ha)として、折居高山の名で市民に親まれてきました。大正3年に保安林の指定があり、その結果もあってか、数多くの開発が計画されましたが、いずれも日の目を見るに至りませんでした。53年に総合運動公園の計画が具体化し、100haの用地の払下げがあり、55年造成工事に着工、57年3月一部開園の運びとなり、その後毎年施設整備が行われ、今日の姿となりました。

(1) 利用状況：61年以降 100 万人以上の入園者を見るようになりましたが、半数が運動施設利用者であり、半数がレクリエーションに利用する人々であります。地域的には京都市が4%、宇治市4%、城陽市10%、府南部10%、他府県10%であり、年齢別では10代～30代の若い層が圧倒的に多数を占めています。

(2) 主要な施設：陸上競技場、第2競技場、野球場5面、球技場2面、テニスコート12面、体育館、競泳・ファミリープール、遊びの森、ふるさとの森、冒険の森、中央広場、ファミリー広場、駐車場等

周辺の変貌

53年公園計画が浮上した頃は、公園周辺では僅かに京阪琵琶台団地 17.5 ha、480 戸が造成にとりかかろうとしていただけで、周辺は砂利取り跡の荒涼とした風景が所々に見られるだけの静かな丘陵でした。しかし公園が具体的な動きを見せるとともに、地元の長年の懸案であった清掃工場 3 ha、宇治市文化センター 2.7 ha、茶業センター 1 ha の用地が払下げられ、次々と工事が始まり、57年、59

年、61年と相次いで完成しました。また公園までの道路拡巾工事が始まり、小学校の移転新築、その跡地に市議会棟、福祉会館、商工会館が新築されました。なお名鉄折居台団地 20ha、670 戸も急速に進捗して公園の57年開園に歩調を合せました。63年京都国体のために太陽が丘は当然のことながら、さらに城陽市は公園の南方約 2 km のところに総合運動場 8 ha (体育館、野球場、テニスコート4、多目的広場) を完成し、また 100 名収容の宿泊施設も併設しました。そのほか京都府は馬術競技会場を宇治田原町くつわ池公園の西側の山10haを切開いて作りしました。当然のことながら国、府、市町一体となって目を見張るような道路網の整備が行われています。

63年国体が無事終了しますと、次の全国規模の行事として、京都府は公園西側に隣接する国有林10haで、平成3年5月に全国植樹祭を開くべく準備が着々と進められています。また宇治市は市制40周年記念事業として、植樹祭用地の南隣に国有林 8 ha の払下げをうけ、平成4年末迄にはフラワーセンターを実現す

太陽が丘の施設概要



る事を発表しました。また京都府は馬術競技会場を一般スポーツの場に改造するため平成元年の予算にすでに計上しました。

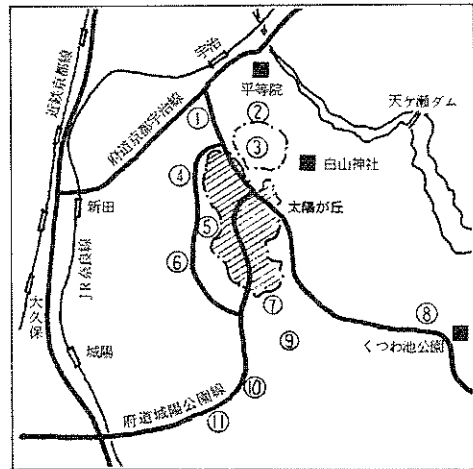
### これからの課題

宇治市役所―太陽が丘―城陽総合運動場と連なる約10kmのベルト状のゾーンに、このような多彩な文化、スポーツ、レクリエーションの施設や、住宅団地、それに附属するような商店が一斉に目白押しに出現しました。そして既存のゴルフ場や、最近目立つ民営テニス場等を併せ考慮に入れてまいりますと、このベルト状のゾーンが燦然と輝いているように感じます。そしてこの丘陵一帯の持つポテンシャルの高さを感じないわけにはいきません。当世風のいい方をすれば「いま太陽が丘周辺が面白い」といったところでしょう。そしてもっと目を南の方に転じ、井手、山城、木津まで視野を広げますと、さらにスケールの大きな構想が浮び上がってくるでしょう。これからの課題としてじっくり取り組む必要があるのではないのでしょうか。

(やまだ たいぞう)

注) 山田さんは、京都府、(財)京都府公園公社に勤められた後、本年4月より当社の主席研究員としてお迎え至しました。(編集部)

### 太陽が丘と周辺の変貌



- ①宇治市役所、福祉会館等 ②折居台団地  
 ③宇治市文化センター ④琵琶台団地  
 ⑤全国植樹祭用地 ⑥宇治市フラワーセンター予定地 ⑦⑨ゴルフ場 ⑧馬術競技場  
 ⑩城陽市総合運動公園 ⑪テニスコート

## 地域づくりのアイデアと計画

―ふるさと創生1億円をめぐる―

重本 幸彦

“ふるさと創生1億円”の画期的な意味

“ふるさと創生1億円”は前首相の竹下さんの提案として話題になったが、これは従来の国の補助金の考え方からすれば、かなり画期的とみられる。今回の1億円は、補助金でなく交付金であるが(そのため、交付金の不交付自治体には“1億円”は回らない)、と

もかく、その要件などがきめ細かくチェックされ、かつ、使途に制約の多い従来の補助金に比べれば、各自治体が自由に使える形をとることは、今までにないことといえよう。

ご存じのように、各自治体は、1億円の使い道をめぐって、アイデアを競うことになった。例えば、ある町がいい使い道が見つかる

まで、1億円を金塊にかえて保管することにした話は有名である。

マスコミでは、国が1億円をバラまいたという見方に立った批判的な報道・評論が多いようだが、けっしてそうとも言えない。従来の補助金行政に国自らが風穴を開けたことや、自治体の町づくり・村づくりに知恵を出させるよう仕向けたことなどは、けっして悪いことではないと思われる。

元来、「団体の自治」という法の精神からすれば、国と自治体は対等であるはずの関係が、国から自治体への補助金の交付などを通じて、あたかも上下関係にあるかのようになりがちである。また、自治体の方も、本来、地域発展や住民福祉など、ある独自の目的を持って自発的に事業をおこし、その際、もし条件があえば国などからの補助を受けるということのはずであるが、ややもすれば、事業目的の検討よりも、制度的に国などの補助金を受けられるかどうか、自治体での事業検討時の判断の第一義的な基準となっていることも、まま見受けられる。極端な場合は、補助金予算消化のために事業をやっているように見えるケースさえある。

今回のように、制約をほとんど付けず、自治体が自由に国からのお金を使えることは、自治体の自治の促進ということでは、望ましいことといってよい。その意味で、現状では、画期的な出来事といえる。

**戦略的な地域づくりの中でこそアイデアが生かせる**

さて、“ふるさと創生1億円”は画期的ではあるが、急に出てきた所に問題がある。

各自治体は、その使い道に困っているのが、実情のようである。建物などのハードに使うとすれば、1億円程度ではあまりたいしたこととは出来ないし、ハード関係は既存の補助金

体系が整っている。したがって、ソフト事業ということになり、住民や職員からアイデアを募集したり、住民による委員会などを設けて、検討することにした所が多いようである。1億円の使い道について、いかに住民のコンセンサスを得るか苦労しているようである。

しかし、いいアイデアを決めるのは難しそうである。問題はそのアイデアの採択の基準、アイデアの評価の尺度であろう。仮に、良さそうなアイデアがあったとしても、それが良いということを、どうして決めるかである。いわゆる思いつきのアイデアでは、十分な効果をあげえない。一時的に効果をあげたとしても、継続的相乗的な効果が生じるかどうか。

もし、効果的なものがあるとなれば、それは、多分、町づくり・村づくりの戦略や計画の中に明確に位置づけられ得るものであろう。つまり、あらかじめ検討され、住民のコンセンサスも得られている戦略・計画に合致しているかどうかなら、基準は比較的是っきりする。

常日頃から、戦略的計画的な町づくりなどに努めている自治体では、おそらくアイデアの評価も円滑に行くだろうし、実施した場合にアイデアを十分生かせるとみられる。

その意味で、自治体が総合計画などを十分検討し、ストーリーのはっきりした戦略的なものとしておくことは、重要である。

できれば、補助金などについても今回のように使い道などの枠をゆるやかにするという試みが継続的になされれば、地方自治にとって大きな意義を持つだろう。

それは、高度成長から成熟社会へと転換しつつある時代における地方自治体の在り方として、潜在的に要求されている自律性の強化という事態に対応したものとなる。

(しげもと さちひこ)

香港・広州  
“値切り観光” “食べ物交流”

藤田 武彦

2年前だったか韓国に行った。それ以後毎年、近くの国に出かけてみようという話になり、今回は香港・広州である（5月中旬）。

香港などは今や極めてポピュラーな“外国”になったようで、日本人旅行者も毎年100万人を越えている。ご存知の人も多いと思うが、思い出話をいくつか紹介したい。

屋台と“値切り”と観光客

香港では税金がかからないから物が安いとよくいわれる。行ってみて驚いたのは、確かに値札通り安く物を売っている所もあるが、普通の店では全てその場の取引になっている。2年前に韓国に行った時もそうだったが、物の値段は“その場その場で決めるもの”らしい。ひどい所では½はおろか¼～⅓の値切りが可能だが、それで値札の意味があるのだろうかと感心した。また普段値切ることが少ないためか、日本人旅行者がガイドさんに“値切り”の手ほどきをうけ、喜々として値切っている場面は、まさに“観光”だと思った。私も十分観光した。

下の写真はよく知られた“ドロボー通り”である。時計、衣料などや魚貝類をつまみに一杯やる屋台がある。我々は、考えてみれば単純な客だと思うが、“値切り”の快感にひ



ドロボー通りの店（シャツ、時計など）

かれて三夜訪れた。

香港で買うより日本で安売り品を買った方が得なものもあるというからまた不思議である。ガイドさんも、あまり物売りには近づかないようにと説明しつつ、お茶や栄養クリームを運転手さんともども、バスの中で“物売り”をはじめから感心する。あれやこれやの“物売り”でこんなに時間つぶしができるとは知らなかった。香港は物があつまり、ただただ消費される24時間都市にみえた。

なおその他に香港のアパート（賃貸は少ないという）はじっくりみてみたいものと思った。勝手に各戸で改築しているようであるし、また1階が商店になっているものはわかるが、2-3階に工場のようなものが入っているものもあった。本当かどうか確めなかったが、アパートの高さは日本のような容積制でなく地盤のよし悪しで主に決まるとガイドさんという。気になる点だがまたいずれ訪ねてみたい。

広州の“喧噪”と“食べ物交流”

いやはやすごい喧噪である。道いっぱい双向で自転車が通りすぎるのをはじめてみた。ここは中国は広州市である。聞くと昼休みが12時30分～2時30分まであって、食事に人が動いているとのことだった。しばらくいくと、街中の路地路地に“メシ屋”風の店が連なり、人がたむろしている。メシを食べることについては香港ともども迫力を感じた。

ドロボー通りの屋台（飲み屋）



下の写真は広州の自由市場である。とにかく鳥、魚など生きているものが商品であり、まさに生鮮食料品を売っていた。鳥の鳴き声、魚貝類の臭いがまざりあい、呼びこみの声も荒々しく、これでこそ食欲をそそるのだろう。

そういえば今回の旅行は“食べる”ことが目的の1つだった。そのため、屋台であやしげな煮物を食べ、街角の客でごったがえしている上海料理店で待ちに待って食べた。しかし極め付けは下の写真である。

写真の店の名には経理部とある。何のことがよくわからなかったが、同行したF氏を先頭に店に入った。酒のみ、つまみを食べ、  
広州の自転車の群れ



広州の自由市場



広州の飲み屋か？



断片々々の英語はさして通じないが、時々拍手と握手が入るといふ具合で、通りの方から何人かの人々が寄ってきた。F氏のいう日中交流になったかもしれない。未だによくわからない店で、私は立ち飲み屋のように思っていたが、ちがうかもしれない。帰る時に店のおばさんが名刺を出した。そこには「経理部主任」とあり、本当はきちんとした雑貨屋かもしれない。似たような店が通りに何軒もあった。いいかげんな記事で申訳けないと思うが、その混沌さこそ、かの地の魅力である。

(ふじた たけひと)

### ソウルの日曜日と大学訪問

三輪 泰司

5月20～23日、ロータリーの国際大会出席の機会に、韓国の大学を訪問しました。

仁川にある仁荷大学校工科大学建築工学科の李東培教授からレターを頂き、5月22日(月)午後、同科の大学院生に特別講義をする機会を与えられました。「京都における保全と開発」をテーマに、スライドを交えて話をしました。日本のことを殆ど知らない韓国の若い世代ですが、真面目で熱心な質疑・討論、終わって、院生代表から記念品を贈られ、びっくりすることばかりでした。

同科の元正洙教授は、韓国銀行本店の設計コンペ入選者です。90パーセント方完成している現場を案内して頂きました。前身の朝鮮銀行本店は、辰野金吾先生の設計になり、それを復元修復して保存し、後ろに高層の新店が出来ています。戦火で記録も失われ、修復設計に、随分苦勞されたようです。

元先生の車で、漢陽大学校へ送って頂き、都市工学科に、30年来の友人、康炳基教授を訪ねました。公団住宅の建替え計画、オリンピック選手村跡のニュータウンを見てまわり



韓国特にソウルの都市と住宅について、その計画について議論しました。

今回、充実した訪問ができたのは、京都大学に留学し、昨年学位を取得して、帰国し、母校仁川大学の講師として活躍している、金龍河君の尽力によります。

大学訪問の前日、21日の日曜日が印象的でした。

金君、大学院生の李君とその友人とともにソウル大学の跡に形成されつつある文化ゾーンへ行きました。映画館、美術館など文化施設と緑の広場、その大通りは、完全に若者の解放区でした。ヨーロッパでは珍しくない光景になっていますが、民族舞踊も交え、ものすごい熱気に圧倒されました。私も娘も同道しましたが、若い人達と一緒に、若い韓国・若いソウルを体験できて、本当によかったと思います。

(みわひろし 代表取締役会長)

#### 高月町・観音の里にようこそ

松尾 高志

4月末の雨の日曜日、琵琶湖北端の高月町まで遠出をしてきました。高月町の観光名物といえば、渡岸寺の国宝十一面観音像をはじめとした観音巡りなのですが、観音様以外にこれといった観光施設が無かったのが、これまでの地元観光の弱点でした。しかしこんな高月町に、5月からちょっと珍しい観光施設がオープンすることになりました。場所は渡岸寺のすぐ隣、その名も「渡岸寺庵」です。今回は、ここのオープン前夜祭を見学してきました。

「渡岸寺庵」は、本格的にオープンすると、琵琶湖特産の鮎・鱒・その他小魚の炭焼料理や、雉・野鳥などの鍋料理が、ここのオリジナルの七輪や食器・道具を使って、観光客に

提供される予定です。また、手作りの惣菜の即売や、地元の特産品の展示即売なども行っていきます。今回のオープン前夜祭では、これから展示即売していく特産品の開発の一環として、町内から手作りの民芸品や特産品を募集し、地域文化の紹介とあわせた展示会を行っていたのですが、高月町周辺の町村からも多数の地場産品の応募があったそうです。

この「渡岸寺庵」を建設されたのは、町内で料理業を営む中谷さんです。高月町では、これまで行政の観光計画がなかなか具体化せず、これに痺れをきらした中谷さんが、自ら観光施設の整備に手をつけられたのだそうで



近所の方もあつまって前夜祭



高月町の特産品です



す。そういう意味では思い切った試みでしたが、オープンに向けてご近所の主婦の方々が進んで手伝いに来て下さるなど、地元ではなかなか好評のようで、町の農協でもこれを契機に特産品づくりを始めたそうです。前夜祭でも、ご近所の方が沢山手伝いに集まっておられ、どうやらご近所のコミュニケーションスペースとしても機能しているようで、我々もご近所の皆さんが七輪で焼いた餅などを御馳走になりました。

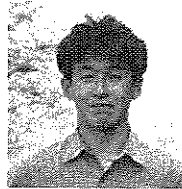
さて、完成した「渡岸寺庵」の建物についてですが、敷地として渡岸寺の駐車場の一部を借地したあずまや風の建物で、内部には国内産絵の一木を大梁に使うなどなかなか贅沢な造りのものです。また、水路と水車で有名な高月町をシンボライズして、建物の周囲には鯉が泳ぐ水路を廻らし、水車がある庭園なども設けてあります。どうか、湖北に行かれた折には、立ち寄ってみてください。

(まつお たかし)

## 新人紹介

〈大阪事務所〉 大西 一也

昭和37年生まれの27歳。京都市生まれで大学も京都府大(院)です。一時住宅関係の会社勤めをしていましたが、もう少し広がりのある計画をやりたくなりました。



大西



伊東

大学では住宅の外観デザインの研究をしてきましたが、今後できれば、消費生活・文化・流行とかいったライフスタイルの勉強をやっていきたくと思っています。

現在は親と同居、京都の左京区に住んでいて、大阪事務所にかよっています。

(おおにし かずや)

〈大阪事務所〉 伊東 遠嗣

出身地は西宮市ですが、方々に住みました。大学は京都大学、経済学部で、ゼミでは都市経済論をやっていました。地域調査などにも、出かけることが多く、都市再開発などに経済的にアプローチしてみたいと思ってました。

年齢は昭和38年生まれの26歳ですが、今年2月に結婚して、年末には子どももできる予定です。現在は大阪市の南森町・天神橋商店街の近くに住んでいます。

趣味は、大学時代にバンドをやっていたこともあり、音楽—ロック、ソウル、ジャズです。

(いとう はやつぐ)

今後ともよろしく願います。

## お知らせ

〈アルバックセミナー〉

テーマ

「日本とアメリカの都市計画プランナーのあり方を考える」

—ピーター・グレンネル氏と山下明氏を囲んで—

日時 1989年7月21日(金)

PM 3:00~6:00

場所 烏丸京都ホテル

主催 地域計画・建築研究所

〈日米沿岸域セミナー〉

テーマ

「ウォーターフロントの市民的利用を考える

— パネルディスカッション —

・コーディネーター

塩崎賢明氏(神戸大学助教授)

・パネラー

ピーター・グレンネル氏(カリフォルニア州

沿岸域管理委員会事務局長)

山下 明氏(プランナー、ボストン在住)

杉原五郎氏(地域計画建築研究所計画部長)

日時 1989年7月22日(土)

PM 1:00~5:00

場所 大阪キャッスルホテル

(京阪天満橋駅下車 約3分)

主催 都市環境研究会

後援 地域計画・建築研究所

## 新刊旧刊書評紹介

ツイアビ演説集 岡崎照男訳

## 「パパラギ」

—はじめて文明を見た 南海の酋長ツイアビの演説集—

紹介 福岡 雅子

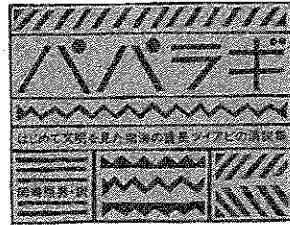
多くの人が文明の良い面だけを享受した生活には賛成するが、都市問題や環境問題に対峙する時は多かれ少なかれジレンマに陥る。それらの問題は必要悪であり、文明を享受する場合には避けては通れない問題であるという考え方がそのジレンマの根元である。ジレンマに陥った挙げ句、文明批判に対しては、必要悪であるということによって文明批判の批判をする。

「パパラギ」は、20世紀初頭に文明を初体験したサモアの酋長ツイアビの文明論である。1920年に初めて出版されて以来、世界中で読まれているという。

透明な風のない石ばかりの都市を造るのが本当にすばらしいことなのか。文明人はお金に心を売り渡したのではないか。ものを持っては持つほど心は貧しくなっていく。分業化された職業というもので人の生活はめっちゃくちゃになっている。兄弟よりも豊かであろうとする貪欲さ、たくさんの無意味な行い、好奇心だけでものを考えて何にも知らない知識。

ツイアビはヨーロッパを旅し、文明社会を見聞した。そして、我々にはともすれば幼稚とも思える発想と比喻によって文明社会の様々な現象や文物を語った。文明社会には、彼の価値観によっては理解の困難なことが多かった。例えば働けばお金になるという掟があるが、お金を持っている人が必ずしもたくさん働くわけではない。

そうして彼は彼の同胞であるサモアの人々に向かって言う。「パパラギは私たちが彼ら



と同じ闇の中に引きずりこもうとする。」

パパラギとはサモアの言葉で白人という意味である。ちなみに日本人はシャパニであり、パパラギではない。かつてシャパニは木の家に住み、四季の自然とともに生活をしていた。我々の価値観はパパラギよりはサモアの人々に近いものではなかっただろうか。日本人こそが「パパラギ」を読んで、以前に当り前であった生活といまの文明社会での生活の違いを身に染みて感じることができないのだろうか。

私は、「パパラギ」は書評などで言われるような文明批判の書ではないと考える。価値観の違う2つの世界での生活の違いを一方の価値観によって解説したものである。しかし、その価値観が、我々が忘れかけていた、もしくは忘れてがっていた大切なものなのかもしれない。そして、「パパラギ」が文明批判でないために、必要悪であるということを経験に反論をすることもできないのである。

(ふくおか まさこ)

## まちかど

### 高月町の水と花

鶴岡 奈弓

本文でもとりあげた高月町の、<sup>あまのうら</sup>雨の森集落に行きました。まちがきれいなのにびっくりしました。このあたりはもともと水の豊かな地域で、まちを縦横にはしる水路もいつもなみなみとみずを湛えています。生け垣の続く町並みの中のそんな流れに、可憐なパンジーが花影を映し、水車がまわり鯉が泳いでいて、大袈裟に言えば、桃源郷に紛れ込んでしまったような不思議な美しい光景です。近づいてよく見ると、木や街を利用した手作りの台のうえに、ただ鉢を並べただけのことなのですが、普通では思いつかない発想であり、また水が澄んでいるからできることで、感心させられます。

いまでこそ、景観形成や町並み保存が頻くいわれるようになりましたが、ここのは昭和56年くらいから始められており、なにより素晴らしいのは、どこかから押しつけられたのではなく、町民自身の「美しい環境のなかで暮らそう」という気持ちのみが原動力となっていて、若者からお年寄りまで皆でまちづくりをしている点です。結果として、「農村アメニティの向上」として表彰をうけ、水車の数が増え、観光的要素が強くなってきていますが、

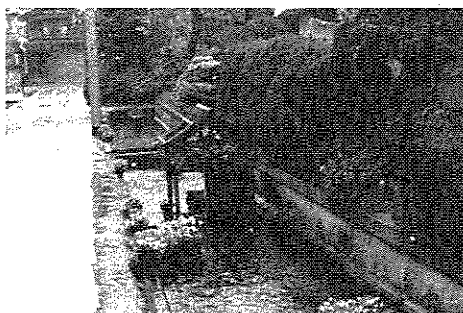
ほんとうの意味でのまちづくり・景観形成とはなにかを深く考えさせられました。

(うかい なゆみ)

### 個人の発想がもとで集落全体に広がった水辺の花



昔は川沿いの集落では水車が普通に見られ、田への揚水等につかわれていた



## アルパック (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

本 社	〒600	京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82 (大和銀行京都ビル8階)	TEL (075) 221-5132(代) FAX (075) 256-1764
大 阪 事 務 所	〒540	大阪市中央区石町1丁目1番1号 (天満橋千代田ビル2号館)	TEL (06) 942-5732(代) FAX (06) 941-7478
名 古 屋 事 務 所	〒460	名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 (ツボウチビル2階)	TEL (052) 962-1224(代) FAX (052) 962-1225
東 京 事 務 所	〒402	東京都港区芝大門2-3-14 (一松ビル1号館402)	TEL (03) 437-3405(代) FAX (03) 437-3407
九 州 地 域 計 画 研 究 所	〒810	福岡市中央区天神1丁目15番1号 (日之出ビル6階)	TEL (092) 731-7671(代) FAX (092) 731-7673